

明けましておめでとうございます。今年も元旦の天皇杯の決勝から始まり、全国高校サッカー選手権大会、全日本大学サッカー選手権大会、全国高校女子サッカー選手権大会など熱戦が繰り広げられる中、幕が明けました。また、ブラジルワールドカップ予選も大詰めで、今年もサッカー界に対する関心が高まるものと思われ、喜ばしい一方で審判委員会としては人材育成の責任を感じ身の引き締まる思いです。

さて、今年は何年ですが、「巳」つまり「蛇」は脱皮をすることから「復活と再生」を連想させる動物だそうです。サッカー・フットサルの審判員、審判指導者の皆様におかれましては、何年にもなると審判員として復活をしていただいたり、指導者として再生していただけるとサッカーファミリーの拡大にも繋がり東京のサッカー環境がより良いものとなっていくと思われまます。

また、「巳」の特徴は探究心と情熱。蛇は執念深いとされていますが、恩を忘れず、助けてくれた人には恩返しをするとも言われています。審判員、審判指導者の皆様も審判委員会の事業で培ったことをフィールド上やインストラクターの活動の中で情熱的に発揮していただきたいと思ひます。また、飽くなき探究心をもって技術向上に励まれますことを期待してあります。

本年も審判委員会は、皆様がより良い活動ができるように尽力してまいりたいと思ひてありますので、何卒宜しくお願ひ致します。

『ビジョンを明確に全員で取り組む』

東京都サッカー協会審判委員会では2010年度に牧野委員長が就任された時、「競技規則に則って正しく試合運営（審判）できる審判員を育て、サッカー及びフットサル競技の普及・発展に寄与する」という新しい委員会活動方針を策定しました。

審判委員会が実施する各事業は、活動方針に基づいて策定された重点取り組み事項に沿って企画・運営されています。中でも、特に審判委員会が重要な課題として掲げているものが2つあります。

まず、「審判インストラクターの強化」です。

近年の取り組みの成果もあって、市区町村の多くの方々に指導者資格を取得していただくことができました。しかし、既に資格を持っている方々に広く活動の場を提供し、効果的な指導実践ができる審判インストラクターを育成するまでには至っていません。

そこで今年度は、インストラクターセミナーを企画して全体の底上げを図り、より高いレベルでの指導ができる審判インストラクターの育成に取り組んでいます。

2つ目は、「指導・育成対象の範囲拡大」です。委員会指導部会の企画運営事業の中にトレセン事業がありますが、日ごろからアクティブに審判活動を行っている方々にはトレセン事業を通じてトレーニングや研修の機会を提供できていますが、まだまだ多くの審判員がトレセンに参加しきれていない実態もあります。こうした審判員の底上げに努め、東京都内で行われるさまざまな大会や試合で審判員への指導機会を創出し、地区・連盟で活動する審判員、女子審判員、ユース審判員へと指導・育成の対象の範囲を拡大していくことが課題です。昨年度以前から継続して開催しているトレセン事業では、S2級強化の場であるT-RAP、S2級アクティブレフェリーを対象にしたS2級トレセン、S3級強化審判員を対象にしたS3級トレセン、フットサルレフェリートレセンと、数多くの充実したトレーニング機会を提供し、前述の委員会活動方針を実践しています。

今後も明確な方針（ビジョン）と課題に基づき、これからの東京または日本を担い、世界で活躍できる審判員を創出していきたい。そのために多くの事業を企画して、日本サッカー、フットサルの普及・発展につなげていきたいと思えます。

<サッカー2級審判員 更新講習会>



サッカー国際女子副審 高橋早織 氏による講演模様

2012年12月23日、東京学芸大学にてS2級ライセンスを保有される150名の方が集まり「サッカー2級審判員 更新講習会」開催されました。